

「自分が十分に楽しんだら、
人のために何かをする。」

永年にわたる野球競技
の普及活動を通し 市スポーツ
の振興・発展に貢献された方。
平成9年に国立市野球連盟に加入、平成11年に国立市体育協会に加入し、これまで数々の大会やイベントの運営から広報まで多岐において活躍。

教育文化功労 天田 正人氏

―野球連盟に入った動機とは何でしたか。

自分が根っからの野球好きという事ですね。国立市に住み始めた小学生の頃から高校まで野球部に在籍し、シートのポジションを務めていました。社会に出てからも会社の野球部に所属して。その後千葉県千葉市に移り住んだのですが、そこでは少年野球の指導をやっていました。しばらくして国立市に戻る事になり、少年野球からも離れたのでまた何か野球に携わりたいと考えていた折、国立市野球連盟があると知って。

―野球連盟、体育協会での活動内容について教えてください。

野球連盟では、年に2回、春と秋に開催される大会の運営を行っています。また大会の円滑な進行のため、審判員を務めています。

体育協会では最初に事業部員となり、「ファミリーフェスティバル」や「くにたちウォーキング」の企画から運営まで携わりました。規模の大きな行事のため、それぞれにつき十回以上会議を開いて内容を煮詰め、

開催の前日まで準備に走り回るので、とても忙しかったです。

その後広報部員に就き、現在は主に広報誌「体協だより」の編集を行っています。

―活動の中で喜びを感じる瞬間とはどんな時でしょうか。

やっぱり、参加している皆さんの喜んでる姿を見るのはとても嬉しいです。決勝戦で負けたチームなどは、内心悔しい思いをされていると思いますが、それも含めて楽しんでくれたのだと感じています。

あと個人的に、審判員としての役割は楽しんでやっています。試合に立つことはもちろん、日頃からルールブックを読み込んだり、インターネットで誤審の映像を見て勉強することも、野球好きとして面白みを感じています。

―市内の野球事情を教えてください。

野球連盟に加入しているチームは年々減ってきています。景気の影響もありですが、近年は世代の移り変わりや趣味の多様化に伴い、チーム

の構成に必要な人数を集めることから難しくなってきました。

それでも運営側としては、参加チームが気持ちよくプレーできるようにある程度盛大に大会を開催したいと思っています。

―運営内部の事情ですと、審判員の不足が近年の課題としてあります。在籍する審判員の高齢化もあり、体育館にチラシを掲示するなどして積極的に募集をかけていますが、なかなか。

―これからの目標を教えてください。

自身としては、やはりボランティアで野球に関する活動を続けていくと思います。1年休んでいた還暦野球でのプレーもまた始めました。体が動く限り野球に携わりたいです。

―自分が十分に楽しんだら、人のために何かをする、ということは気持ちがいいものです。最初は少年野球、部活動。大人になって社会人野球をして。さらに年を重ねたら、今度はボランティアで地域野球の運営活動を行う。そういう流れが、野球をすすめる人々の中に根付き、野球文化が継続していくことを願っています。